

SHINCHO CREST BOOKS



illustration by Soshiki Daisuke

本の森へ。

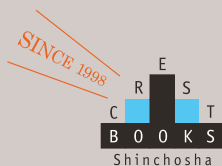
# 新潮クレスト・ブックス 2016-2017

〔新刊インタビュー〕 アンソニー・ドーア

〔近刊紹介〕 トンミ・キンヌネン

ただいま翻訳中! これから出るクレスト・ブックス

新潮クレスト・ブックス カタログ 1998-2016



# 驚異と奇跡をめぐる 歴史小説

2002年に『シェル・コレクター』で衝撃的なデビューを飾り、  
短篇を中心に着実に評価を確立してきたアンソニー・ドーア。  
このほどピュリツァー賞を受賞した『すべての見えない光』は、  
第二次世界大戦中のフランス、サン・マロを舞台とした感動的な大作。  
創作の過程と、作品に込められた思いを、たっぷり語るインタビュー。

## アンソニー・ドーア

*interview with Anthony Doerr*

聞き手

ジル・オーウエンズ

interview by Jill Owens

翻訳・藤井光

translated by Fujii Hikaru

アンソニー・ドーアの新作長篇『すべての見えない光』では、二人の物語が並行して語られる。一人は、ドイツ占領下のフランスで暮らす十六歳の目の見えない少女、マリー＝ロール。もう一人は、孤児院で育った十八歳のドイツ兵、ヴェルナーである。そして、呪われた宝石〈炎の海〉、マリー＝ロールの父が娘のために作るバリとサン・マロの町の模型、貝に覆われた秘密の小洞窟など、魔術的ともいふべき豊かな描写が物語を彩っている。

### 僕らが忘れていた奇跡

——この小説が生まれたきっかけを教えてください。

ある日ニューヨークで地下鉄に乗っていたら、携帯電話を使っている男性がいて、通話が切れてしまった。彼は怒り出して、拳で荒っぽく電話を叩きました。それを見て僕は、遠く離れた誰かと話ができるなんて奇跡だというのを、僕はすっかり忘れてしまっている、とノートに書きこみました。そして、ラジオの不思議さを読者に思い出しってもらうためにはどうすればいいだろうかと考えた。自分の家にながら、そこにはいない人の声を聞くことができるなんて、一九二〇年代や



三〇年代には本当に奇跡でした。そのことを描こうとしたんです。そしてこの物語は、ラジオが最強のテクノロジーで、ちょうど僕らにとつてのインターネットのようなものだった時代のものになるはずだと感じました。

## サン・イカロの王国

——その後どのような経緯で、第二次世界大戦が舞台となり、少年と少女が戦争の敵味方に分かれたのでしょうか。

初めのころ頭にあったのは、どこかに閉じこめられた少年と、彼に物語を読み聞かせる少女という断片的なイメージだけでした。どうして閉じ込められたのかも、どんな物語を読み聞かせているのかもわかっていなかった。闇のなかを手探りで進むようなものでした。そんな折に、文芸フェスティバルが開かれていたサン・マロに行つたんです。

僕は夜に町に着いて、夕食のあと外を散歩しました。初めて訪れるサン・マロの町は、塁壁に囲まれています。五月の夜のそよ風はすばらしかった。僕は塁壁の上において、周囲には花崗岩造りの古い邸宅の三階の窓が見えました。海は暗くて、船の照明がふたつついていただけでした。

僕はすっかり魅了されました。イタロ・カ

ルヴィーノの『見えない都市』の都市にいるような気分だった。誰かが想像で作り上げた町のように思えたんです。そんな町を見たのは初めてでした。町全体が砦として築かれ、それでいてすばらしく美しい場所でもある。町の地下には国の認可を受けた海賊たちが邸宅を構えていて、堅固な地下室に略奪品を取っていたそうです。

編集者に「すごく古くからある、見事な町

**遠く離れた誰かと**

**話ができるなんて**

**奇跡だということぞ、**

**僕はすっかり**

**忘れてしまっている**

なんですね」と言うと、彼は「じつは、この町は一九四四年にあなたの国に壊されたんですよ」と答えました。町の八八パーセントが破壊され、ほとんど一から再建しなければならなかったそうです。僕は「それはすみませんでした」と返すほかありませんでした。

まず町が消し去られ、苦勞の末に再建され、そして僕のような間抜けな旅行者が気がつかないほどになった。そう考えていると、これ

は閉じこめられていたあの少年にびつたりの設定だと閃いたんです。一九四四年のアメリカによる爆撃のとき、その少年が難攻不落の地下室にいて、大きな花崗岩の壁や頭上の梁があれば、押し潰されずに閉じこめられるんじゃないか。そこに彼がいることになったいきさつや、マリー＝ロールの身の上が決まったのは、もう一年が経ったころでした。

——〈炎の海〉という宝石には、実在のモデルがあるんですか。

イエスでありノーです。よく似たものはロンドン自然史博物館にあって、呪われていると長いあいだ信じられていたサファイアです。でも基本的には、〈炎の海〉はいろいろな本で読んだ話から生まれてきたものです。

調べてみると、侵攻がはじまったとき、ルーヴル美術館はほとんど警戒していなかったようです。侵攻されるはずがないと高をくくっていた。パリからすべてを運び出す時間は数週間しかありませんでした。レンブラントや〈モナ・リザ〉は布をかぶせられて、首都の外に避難しました。レンブラントの絵がルーヴルの廊下で箱に入れられようとしている写真も残っています。

次に、パリの自然史博物館のことを考えました。そこにはどんな宝物があったのか。本当に計り知れないほど貴重な鉱物が収蔵され

ていました。真珠、化石、隕石。運び出せる重さであれば、どうにかして運び出そうと博物館は手を尽くしました。僕はそうした状況について想像をめぐらせたんです。

そんなわけで、僕が知る限り、パリの自然史博物館には呪われたダイヤモンドはありません。すべて架空のものです。

目の見えない少女を主人公にすることは決めていましたから、次はこう考えました。「人々の目を奪い、でも視力を失った人にはその力が及ばないようなものは何か？」そこで、宝石だと思っただけです。

ただ、僕は読者に、宝石についてのドラ

マチックな疑問を持たせるだけで終わりたいくはありませんでした。その答えが出てしまえば、読者の興味はそこで終わってしまいます。僕はふたりの子どもたちの個性をしつかりと描き出して「このダイヤモンドは呪われているのか」とか「宝石は本当にあるのか」という

以上の興味を読者に持ってもらいたかったんです。

### 手触りで美しさを知る

——短篇集『シェルコレクター』の表題作「貝を集



める人の主人公も、マリー＝ロールと同じように目が見えない人物です。語り手の目が見えないということにはどんな意味があるのでしょうか。

その質問はよくされますが、答えはないんです。気がついたらそうなっていました。もともと、マリー＝ロールの章の一部は、僕自

身の作家としての弱点を克服しようとする練習から生まれたものです。僕は視覚的な描写にかなり頼ってしまうので、他の感覚を中心にした文章を書いて、それをリアルなものとして読んでもらえるか試していました。

それから、マリー＝ロールが非常に危険な状況に身を置いていることも理由だったかもしれません。包囲戦のとき、彼女のそばには数日間にわたって誰もいないわけです。それ以上に危うい状況があるでしょうか？ それでも、自分の心の奥になんらかの強さを見出して、参ってしまわずにいられるのでしょうか？ 僕にそれができるかどうかはわかりませんが、マリー＝ロールは間違いなく、僕よりも強く、勇敢です。あの屋根裏部屋の周りには砲弾シェルが降り注いでいるのに、彼女は正気を保つ方法を見つけ出したのですから。

「シェル」つながりでいえば、彼女には貝殻に興味を持ってもらいたいということ、はじめから思っていました。僕はずっと、軟体動物の外見の美しさと手触りに惹かれてきました。子どものころは、いつも貝を集めていました。それが「貝を集める人」とマリー＝ロールの両方に吹きこまれていきます。なぜ自然は、それほどまでの美を指すのか？ 僕にとつて、その問いは貝殻に凝縮されています。目が見えないため、指で貝殻の種類を区

別して美しさを知るといふ設定と、うまく噛み合ってくれていればと思います。

僕は昔から、大学の学問で科学と芸術を分けてしまうことに疑問を感じていました。今までに書いた五冊の本はどれも、そのふたつを結びつける方法を模索するものです。マリー・ローレルだけでなく、ヴェルナーを描くときも、僕は世界のこんなところに魅了されているんだよ、と言おうとしています。物語を通して、他の人たちにもそれと同じ思いを持ってもらえたらと思っています。

### 驚異の念を源として書く

——たしかに、あなたの作品ではよく、リアリズムや科学が、神話や想像力と混ざりあっていますね。僕にとってはすべてが面白いんです。本当に運が良くても七十年か八十年くらいの人生のあいだに、僕らの目を奪うようなものは世界にひしめいています。ケープルーカの構造、ピザンチウムの歴史、カルヴァンやホップスの思想、あるいは、一日もしないうちに死ぬでしよう蚊の一生のこと。そういったものすべてが存在するし、僕としてはそのすべてを学ぶ時間がほしいんです。

何かに心奪われて夢中になると、僕はたいして、それを登場人物に投影して、その思い

を分かち合おうとします。世界に対するその熱意が、ささやかではあれ、読者にも伝わるように願っています。

僕は現実に対して醒めた小説には興味がありません。マーク・トウェインやジョージ・ソーンダーズのように、風刺的な作家でありながら、創作においては魂が汚れることのない、すばらしい作家は確かにいます。僕はもっと敬虔なタイプの書き手なのでしょね。醒

### 偉大な物理法則を

もってしても、

どの人間が生きているべきか

死ぬべきかを

決めることはできません。

めきった気分になっているときは、魂をこめて書くことができないので、自分の作品に関しては驚異の念を源にするようにしています。

——ヴェルナーのノートがすばらしいですね。子どもどきに答えを求めていた疑問の数々、たとえば「雷が海に落ちて魚がみんな死なないのはなぜか」といったことが書かれています。あなたもノートを持っていたりしたか？

僕は疑問集のノートは持っていませんが、小さなメモ帳をいつも持ち歩いています。八歳のときに初めて書いた本は、軟体動物についてでした。表紙にはエゾバイのスケッチを描きました。

これだけ情報が手に入りやすい時代になっても、まだ謎はたくさんあるはずですよ。インターネットは不正確な情報だらけです。それは、僕らの知識には空白があるという証拠です。最良の科学者は、僕らの未知という闇の大きさは、知っていることを遙かに凌駕していると認めているものです。だからこそ、科学はすばらしいんです。これまでに得られた知識のすべてを問いつつ、人類の知識の及ぶ範囲を少しずつ広げていくのですから。

——エントロピー、秩序と無秩序といった概念が、小説の中でたびたび登場しますね。

僕が試みたのは、ヴェルナーの学校が「我々は人類の進化を秩序化している。劣ったもの、手に負えないもの、くずをふるいにかけて捨てている」という主張を叩き込もうとしているのだと絶えず気づかせることです。人種差別や優生学は確かに存在していました。進化の方向を決められるなんて、思い上がった考えです。自然に秩序を押し付けようとしても空回りするだけ、自然とは無秩序なものなのだ、僕はそう示そうとしたのだと思います。



photograph by Tsukasa Mishima

偉大な物理法則をもってしても、どの人間が生きるべきか死ぬべきかを決めることはできません。ホロコーストは、その恐ろしい秩序を押し付けようとする試みだったと思います。

——この作品は、ごく短い、数多くの章から成っていますね。章から章へ、二人の主人公の間、過去と現在の間を行き来するのは、どんな作業でしたか。

巨大なパズルに取り組むようなもので、楽しいと同時に、とてつもない忍耐が必要でした。大きな模型の家を作っているような気分でしたね。百八十七の章があって、視点や時代が次々変わるわけですから。

ときどき、マリー＝ロールとヴェルナーの

あいだのバランスに気を使っている不安になったり、どちらかの人生のほうがいい出来事に溢れているような気がしたりしました。結局は、A・B・A・B、過去・現在というリズムを破ってもいいだろうと判断しました。僕はノートカードで章を色別に分けて、読者がどの視点で読むのがわかるようにして、しょっちゅう順番を変えています。

それに加えて、一九四四年と、そこにいたまでの歳月のあいだでの行き来があります。僕なりに読者を導いていこうと手を尽くしましたが、同時に、どの時代と場所が描かれているのかは読者がわかってくれるだろうと信頼する必要もありました。

## Anthony Doerr

1973年、オハイオ州クリーヴランド生まれ。2002年に短篇集『シェル・コレクター』でデビュー。O・ヘンリー賞、パルンズ&ノーブル・ディスカバー賞、ローマ賞等、数々の賞を受賞。2010年刊行の二冊目の短篇集『メモリー・ウォール』はストーリー賞を受賞した。現在、妻と二人の息子とともにアイダホ州ボイシに在住。『シェル・コレクター』および『メモリー・ウォール』は、岩本正恵訳で新潮クロスト・ブックスより刊行されている。

短い章には、物語を中断するという効果もあります。Aの物語をいったん止めて、Bの物語に移っても、Aは読者の頭のなかでまだ生きています。ディケンズから『ゲーム・オブ・スローンズ』まで、大長篇はそうやって緊張感を作り上げていくんです。

——章が長いよりも短いほうが、詩的な文章や言語による実験をうまく取りこめそうですよね。すぎまがたくさんあると消化しやすくなる。

それはよかったです！確かに分厚いですが、空白も多いため読者には親切な本だと思えます。次々にページをめくっていきけるはずですよ。

僕の文章は濃密になりがちです。細部を積み重ねていくのが大好きなんです。読者には、登場人物の感情に入りこんでもらうよりも、その人物の周囲にあるものを描写することで、内面を直感的にわかってもらいたいです。それはなかなか厳しい要求だという自覚はありますから、章を短くするのは僕なりの親切心みたいなものです。読者にこう言っているような感じですよ。「気持ちちはわかるよ、多くの読者にはちょっと叙情的すぎる文章だけど、空白がいっぱいあるから、そこで立ち直れるでしょう」ってね。

# ただいま翻訳中!

今秋以降に刊行を予定している注目の作品を、それぞれの翻訳者の方々にご紹介いただきました。移民、戦争、介護、結婚生活。現実と向き合って書かれた、力強い物語にご期待ください。



photograph by Tsudata Mitsuharu

※タイトルはすべて仮題です。

## 『貧困と恩寵』

アリス・フェルネ  
Grâce et Dénuement by Alice Ferney  
デュランテキスト列子  
text by Durand Texte Letsuko



ヨーロッパの放浪民  
ジョーロッパの放浪民  
語。フランスに定住し  
ながら、疎外され、  
消費社会の圏外で暮ら  
しているさま、その文  
化と価値観が実話を元に語られる。

家長のアンジェリナばあさんには、働くことを知らない5人の息子と、4人の嫁、次々と生まれる孫がある。その生涯は、物質的には貧困そのものの持つているものは、子供を孕むことの欲びと強固な家族愛、そして破天荒なジブシー魂だけ。だが不思議なくらい惨めさが無い。

ある日、彼らのキャンプ地に若い女性が出てくる。よそ者扱いされながらも、彼女は学校を知らない子供たちに、本の持つ魔力を根気よく教える。そしてやがて、読み書きを知ることによって別の世界が開けることを親たちにも悟らせる。忍耐と寛大さがもたらすものは美しく驚異的だ。

(二〇一六年十一月刊行予定)

## 『ビリー・リンの ハーフタイムショー』

ベン・ファウンテン  
Billy Lynn's Long Halftime Walk  
by Ben Fountain  
上岡伸雄  
text by Kamioka Nobuo



イラク戦争の  
真っ最中、テキサ  
スで行われたNFL  
の試合のハーフ  
タイムで派手な  
ショーが繰り広げ

られた。ピョンセが大学や軍のマーチングバンドとともに行進し、歌い踊ったのである。目的はアメリカ軍を支援し、戦争への支持を高めること。この実話をもとに、ハーフタイムショーに駆り出された純朴な兵士ビリー・リンを描いたのが本作だ。悲惨な戦闘に巻き込まれ、親友の死も目の当たりにしながら、英雄扱いされて連れ戻されたビリーたち。アメリカでは各地のイベントに引きずり回され、国威発揚に利用される。彼らを出迎えるアメリカ側の金儲け主義がいかに戦場の兵士たちの現実とかけ離れているか。それが皮肉のたつぷりときいたユーモアで扱われ、戦争自体のバカらしさをさらけ出している。権力者とメディアの壮大などんちゃん騒ぎを分析する作者の鋭利な目が秀逸だ。

(二〇一七年一月刊行予定)

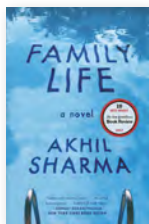


## 『ファミリー・ライフ』

アキール・シャルマ  
Family Life by Akhil Sharma

小野正嗣

text by Ono Masatsugu



アキールとは、2014年にイギリスのノリッチ文芸フェスで知り合った。彼に誘われて街を散歩することになり、書店に入って刊行され

たばかりのこの本を買った。アキールは照れくさそうに笑った。読後、余韻がずっと残った。アメリカに移住したインド人家族の物語。語り手の兄は高校入学前にプール事故で脳を損傷し、植物状態となる。変わり果てた兄の介護に追われて心身ともに疲弊していく家族。ほぼ作者の実体験だ。シンブルで淡々とした文章から、痛みと優しさを、大きな哀しみが心に染みこんでくる。「完成するまでに12年半かかったんだ」とアキールは言った。文字通り骨身を削って書かれたこの小説は、2015年に、第2回フォリオ文学賞、2016年には、国際IMPACダブリン文学賞を立て続けに受賞した。この素晴らしい作品を日本の読者に届けられることがとても嬉しい。(二〇一七年三月刊行予定)

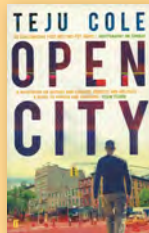
## 『オープン・シティ』

テジュ・コール

Open City by Teju Cole

小磯洋光

text by Koiso Hiromitsu



ニューヨークの秋の宵、ある若者が散歩を始める。マンハッタンを彷徨い歩き、建物や風景に目を凝らし、人の話に耳を傾け、何かを思索する。考えるこ

とといえは、グスタフ・マラーから、白い鯨、奴隷の歴史や、祖国ナイジェリアまで、実に様々だ。この孤独な散歩者はブリュッセルでも通りを歩ける。り、街を見て、話を聞き、そして考える。本書は都市を舞台にした散歩小説だ。同時に移民の物語でもある。読み進めれば、街の記憶とともに移民の歴史が浮かび上がる。彼らの孤独な声も聞こえてくる。

イギリスの書店でこの小説と出会った時、店員さんに「写真みたいな小説だよ」と言われた。その通りだった。写真家でもあるテジュ・コールの情景描写は、映像的であり繊細だ。静かで美しい散歩小説。PEN/ヘミングウェイ賞、ローゼンタール基金賞受賞。

(二〇一七年春刊行予定)

## 『運命と怒り』

ローレン・グロフ

Fates and Furies by Lauren Groff

光野多恵子

text by Mitsuno Taeko



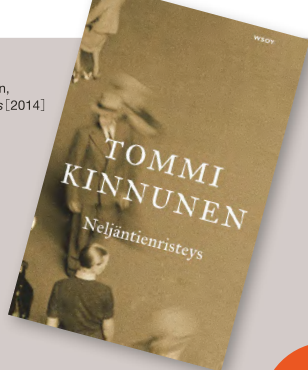
いにしえの騎士のような名を持ち、シェイクスピアをこよなく愛する俳優志望の若者が、同じ大学の学生でモデルもしている孤高の少女と出会って電撃

的に結ばれる。彼らの結婚を、夫と妻のそれぞれの視点で追った作品で、後半には様々な点で戻すが……。独特のエロチシズムが漂う作品で、それ自体がテーマではないが、死の影も随所に漂う。

また、深刻なはずの場面に笑いが仕組まれていたり、意外な箇所胸を突くような深い悲しみを伝える一節が潜んでいたりと、喜劇と悲劇が表裏一体となったこの作品の物語世界では、聖と俗もまた混淆しているのだ。スケールの大きい作品で、翻訳しながら作者の熱量の高さをひしひしと感じている。この作家の短篇は村上春樹さんの訳ですでに出ているが、長篇は初めての邦訳。全米図書賞最終候補作。

(二〇一七年夏刊行予定)

Tommi Kinnunen,  
Neljäntienristeys [2014]



Coming Soon

photograph  
© WSOY / Jussi Vierimaa

2016年  
10月  
来日予定!

# 北の国の人々の 秘められた情熱 トミ・キンヌネン 『四人の交差点』

古市真由美訳 2016年9月刊行予定

フィンランドで記録的ベストセラーとなった  
ある一家の三代にわたる物語。

古市真由美・文  
text by Furuichi Mayumi



百年ほど前のフィンランド北東部。マリアは、村で最初の助産師として多くの赤子を取り上げ、自分の娘も女手ひとつで育て上げる強い女性だ。そんな母とは違う生き方を望む娘ラハヤは、写真技師として自活しながら、母が持たなかったものを手に入れようともがく。歳月が流れ、ラハヤの息子の妻となったカーリナは、意固地な姑に苦しめられる。一方、ラハヤの夫オンニが、焦がれるように求めた幸せとは。三つの世代、四人のたどる道が交錯するとき、その交差点にひとつの物語が立ち現れる。

本書は著者トミ・キンヌネンのデビュー作だが、フィンランドでは発表直後から大きな反響を呼び、ベストセラー・ランキングのトップに躍り出て、のちに舞台化もされた。現在までに日本を含め十五か国に版權が売れ、海外での評価も高い。著者は十代の若者に国語（フィンランド語）と文学を教える現役の教師でもある。

ロシアとスウェーデンに挟まれて、そのどちらとも違う言語を持ち、独自の文化を育んできたフィンランドで、いま最も旬な作家のひとりだ。

初めて本書を読んだとき、なんとフィンランド的な物語だろう、と思った。登場人物はみな、あふれるほどの心の痛みを抱えているのに、それを口には出そうとしない。鍵をかけた部屋に閉じこもるように、ひとり黙って耐えようとする。しかし秘められたその思いは、ときに激しく燃え上がりもするのだ。彼らの深い心の傷も、情熱も、物語の空気が温かく包み込んでいる。

物語の中でひとつの家系が世代交替していく百年のあいだに、馬車が自動車に替わり、大きな戦争が起き、冷蔵庫やテレビが家にやってくる。深い森に覆われた北国の歴史が、物語の背景を川のように流れていく。時の流れの中、四人がそれぞれ部屋の奥に隠したものは——ドアの向こうの眺めに、読者は息を呑むだろう。



## パリ左岸の ピアノ工房

T・E・カーハート  
村松潔訳

パリの小さな工房で、  
若き職人が魔法のよう  
に再生する名器の数々  
……。眠っていた音楽  
とピアノへの愛が甦る  
傑作ノンフィクション。

2000円  
590027-4



## 停電の夜に

ジュンバ・ラヒリ  
小川高義訳

ろうそくの灯りの下、秘  
密の話を——。ピュリ  
ツァー賞ほか独占！ イ  
ンド系女性作家による  
驚異のデビュー短篇集。  
もはや古典的名作。

1900円  
590019-9



## 朗読者

ベルンハルト・シュリンク  
松永美穂訳

十五歳の少年ミヒャエ  
ルが経験した切ない初  
恋。母親のような年の  
女性ハンナを失踪させ  
た秘密とは——。衝撃  
の世界的ベストセラー。

1800円  
590018-2

# Shincho Crest Books Catalog 1998-2016

北はスウェーデンから南はジンバブエまで。  
新潮クレスト・ブックスがお届けする世界各地の文学  
78タイトルをご紹介します。(価格は税別です)



## ソーネチカ

リュドミラ・ウリツカヤ  
沼野恭子訳

本の虫で、容貌のばつ  
としないソーネチカ。最  
愛の夫の秘密を知った  
とき彼女は……。神の  
恩寵に包まれた女性の  
静謐な一生の物語。

1600円  
590033-5



## 灰色の輝ける 贈り物

アリスティア・マクラウド  
中野恵津子訳

カナダ、ケープ・ブレト  
ン島の苛酷な自然の中  
で、漁師、坑夫を業生  
とし、一族としての思  
いを胸に生きる人々。  
奇跡のような名短篇集。

1900円  
590032-8



## ウォーターランド

グレアム・スウィフト  
真野泰訳

土を踏みしめていたはず  
の足元に、ひたひたと寄  
せる水の記憶——。プ  
ッカー賞作家によるもっ  
とも危険なもっとも愛すべ  
き最高傑作。

2600円  
590029-8



## その名にちなんで

ジュンバ・ラヒリ  
小川高義訳

長く口にせずきた思  
い。愛しい人を遠く焦が  
れる切なさ。名手ラヒリ  
が精緻に描く人生の機  
微。ふかふかと胸にしみ  
る待望の初長篇。

2200円  
590040-3



## 冬の犬

アリスティア・マクラウド  
中野恵津子訳

カナダ東端の島で、犬、  
馬、驚ら動物とともに、  
祖先の声に耳を澄ませ  
ながら人生の時を刻む  
人々。生の厳しさと美  
しさを湛えた八篇。

1900円  
590037-3



## シェル・コレクター

アンソニー・ドーア  
岩本正恵訳

孤島で貝を拾い、静か  
に暮らす盲目の老貝類  
学者を襲った奇妙な騒  
動を描く表題作ほか、  
O・ヘンリー賞受賞作を  
含む鮮やかな全八篇。

1800円  
590035-9



## 彼方なる歌に 耳を澄ませよ

アリスティア・マクラウド  
中野恵津子訳

18世紀末、スコットランドからカナダ東端の島に渡った赤毛の男がいた——。カナダの「静かな巨人」が描く、愛すべき一族の物語。

2200円  
590045-8



## 奇跡も語る者が いなければ

ジョン・マグレガー  
真野泰訳

奇跡は起こった。密やかに。誰にも知られないまま。斬新な文体と恐るべき完成度で無名の人々の生と死を結晶させた現代の聖物語。

2200円  
590043-4



## ペンギンの憂鬱

アンドレイ・クルコフ

沼野恭子訳

憂鬱症のペンギンと暮らす小説家ヴィクトル。新聞の死亡記事を書く仕事にきっかりに、身边に不可解な出来事が次々に起こって……。

2000円  
590041-0



## ある秘密

フリリップ・グランベール  
野崎歓訳

孤独な少年の夢想が残酷な過去を掘り起こす。禁断の恋。懊悩。そしてホロコースト。一九五〇年代のパリを舞台にした自伝的長篇。

1600円  
590051-9



## 素数の音楽

マーカス・デュ・ゾートイ  
富永星訳

神秘的な謎に満ちた数、素数。その不思議な美と今も続く天才たちの挑戦とは。小川洋子さん絶賛のスリリングなノンフィクション！

2400円  
590049-6

Shincho Crest Books  
**Catalog**  
1998-2016



## イラクサ

アリス・マンロー  
小竹由美子訳

一瞬が永遠に変わるさま。長い年月を見通すまなざし。長篇小説を凝縮したかのような味わいの、「短篇の女王」による九つの物語。

2400円  
590053-3



## 世界の果ての ビートルズ

ミカエル・ニエミ  
岩本正恵訳

笑えるほど最果ての村で、僕は育った。凍てつく川。薄明かりの森。そして手づくりの僕のギター！ スウェーデンの傑作長篇小説。

1900円  
590052-6



## 海に帰る日

ジョン・バンヴィル  
村松潔訳

海に消えた少女の記憶が、今もわたしを翻弄する。荒々しく美しい、あの海のように。アイルランド随一の文章家のブッカー賞受賞作。

1900円  
590061-8



## 千年の祈り

イーユンリー  
篠森ゆりこ訳

長い祈りに支えられた父娘の縁。人生の黄昏にある男女の情愛……。オコナー賞、ヘミングウェイ賞ほか総なめの驚異のデビュー短篇集。

1900円  
590060-1



## 林檎の木の下で

アリス・マンロー  
小竹由美子訳

スコットランドの寒村から新大陸カナダへ——。三世紀の時を貫く作家自身の一族の物語。落ちついた声、天才的な筆捌き。12の自伝的短篇。

2400円  
590058-8



## 密会

ウィリアム・トレヴァー  
中野恵津子訳

早朝のオフィス、カフェの片隅の定席、離婚した彼女の部屋。秘めた二人の愛の決断とは。「英語圏最高の短篇作家」による十二篇。

1900円  
590065-6



## ペット・サウンズ

ジム・フジャーリ  
村上春樹訳

恋愛への憧れ、父との確執、麻薬、肥満……。ビーチ・ボーイズの最高傑作『ペット・サウンズ』は、壮絶な戦いの記録でもあった。

1600円  
590064-9



## 土曜日

イアン・マキューアン  
小山太一訳

ロンドン、午前四時。未明の空に火を噴く飛行機。テロか？ それとも？ 名匠の優美極まる筆致で描かれる、脳外科医の不穏な一日。

2200円  
590063-2



**帰郷者**  
ベルハルト・シュリンク  
松永美穂訳

帰郷した兵士が見たものは、なつかしい妻と、その後ろにいる見知らぬ男だった。『朗読者』の著者が積年の思いを注ぎ込んだ傑作長篇。

2200円  
590072-4



**記憶に残っていること**

アリス・マンロー他  
堀江敏幸編  
世界最高の短篇小説をこの一冊に。マンロー、トレヴァー、ラヒリ、マクラウド、イーン・リー……創刊から10年間の全短篇集から厳選。

1900円  
590070-0



**見知らぬ場所**  
ジュンパ・ラヒリ  
小川高義訳

父と母の、子供たちの、恋人たちの歳月。『停電の夜に』以来九年ぶり、世界待望の最新短篇集。フランク・オコナー国際短篇賞受賞!

2300円  
590068-7



**初夜**  
イアン・マキューアン  
村松潔訳

ずっと二人で歩いていけたかもしれない。あの夜の出来事さえなければ。遠い日の愛の記憶を克明かつ繊細に描く、異色の恋愛小説。

1700円  
590079-3



**通訳ダニエル・ジュタイン**上下  
リュドミラ・ウリツカヤ  
前田和泉訳

ゲシュタポでナチスの通訳をしながらユダヤ人脱走計画を成功させた男。後にカトリック神父となりイスラエルに渡るその激動の生涯。

上 2000円  
下 2200円  
590077-9.78-6



**最終目的地**  
ピーター・キャメロン  
岩本正恵訳

ウグアイの邸宅で繰り広げられる愛の物語。英国古典小説の味わいをもつ滑稽でエレガントな傑作長篇。アイヴォリー監督により映画化。

2400円  
590075-5



**サラの鍵**  
タチアナ・ド・ロネ  
高見浩訳

パリの女性記者と、ナチに連行された少女。六十年の時を越え、二つの人生が交錯する——累計三百万部のベストセラー。映画化原作。

2300円  
590083-0



**夜と灯りと**  
クレメンス・マイヤー  
柘淵博樹訳

人々の心を覆う深い闇と、そこに灯るささやかな光。旧東ドイツ出身の新鋭による初短篇集。ライブツィヒ・ブックフェア文学賞受賞。

1900円  
590082-3



**シメトリの地図帳**  
マーカス・デューストイ  
富永星訳

数学史上の知られざる偉業「シメトリの地図帳」完成とは。天才たちの息遣いとともに描かれる、美しい数学ノンフィクション。

2500円  
590081-6



**黙禱の時間**  
ジークフリート・レンツ  
松永美穂訳

ギムナジウムで開かれた追悼式。遺影を見つめる少年に甦る、美しい教師とのひと夏の思い出。巨匠による、海に彩られた純愛小説。

1600円  
590086-1



**いちばんここに似合う人**

ミランダ・ジュライ  
岸本佐知子訳  
孤独な魂たちが東の間放つ生の火花を、切なく鮮やかに写し取った十六の物語。映画監督としても活躍する著者のオコナー賞受賞作。

1900円  
590085-4



**奪い尽くされ、焼き尽くされ**  
ウェルズ・タワー  
藤井光訳

夏休みを過ごす少女から、暴虐を尽くすヴァイキングまで。多彩な声と視点で荒涼たる日常を浮き彫りにする、恐るべき初短篇集。

1900円  
590084-7



**オスカー・ワオの短く凄まじい人生**  
ジュノ・ディアス  
都甲幸治・久保尚美訳

オタク青年オスカーの悲恋の陰には、一族が背負った呪いがあった。全米批評家協会賞・ピューリッサー賞をダブル受賞した傑作長篇。

2400円  
590089-2



**小説のように**  
アリス・マンロー  
小竹由美子訳

夫を子連れに奪われた音楽教師。今は幸福に暮らす彼女の前に過去を思わせる小説が現れて——。「短篇の女王」による十の物語。

2400円  
590088-5



**無限**  
ジョン・バンヴィル  
村松潔訳

死に行く父と、見守る家族。そして彼らを眺める、いたづら好きの神。慈愛と思索とユーモアに満ちた、ブッカー賞作家の傑作長篇。

2200円  
590087-8



**メモリー・ウォール**  
アンソニー・ドーア  
岩本正恵訳

記憶再生装置を手に入れた認知症の老女。ダムに沈む山村の人々。戦地でツルに出会う米兵。記憶をめぐる静謐で雄大な六つの物語。

2000円  
590092-2



**ソーラー**  
イアン・マキューアン  
村松潔訳

太陽光発電でひと儲けを企む狡猾で好色なノーベル賞科学者。だが懲りない彼の人生にも暗雲が―。現代社会を笑いのめす最新長篇。

2300円  
590091-5



**週末**  
ベルンハルト・シュリンク  
松永美穂訳

テロリストが二十年ぶりに出所した週末。旧友たちの胸に甦る、恋、確執、未来への祈り。『朗読者』の著者が描くもう一つの「戦争」。

1900円  
590090-8



**女が嘘をつくとき**  
リュドミラ・ウリツカヤ  
沼野恭子訳

夏の別荘で、波瀾万丈の生い立ちを語るアイリーン。ところがその話はほとんど嘘で……。嘘をつく女たちの哀しくも微笑ましい人生。

1800円  
590095-3



**残念な日々**  
デイミトリ・フェルフルスト  
長山さき訳

貧しく、下品で、誇り高い。のんだくれの父一族との少年時代。心をつかんで離さない、ベルギーの俊英による自伝的連作短篇集！

1900円  
590094-6



**ロスト・シティ・レディオ**  
ダニエル・アラロン  
藤井光訳

ある朝ラジオ局を訪れた少年の手には、無数の行方不明者たちのリストが握られていた。ペルー系アメリカ人作家によるデビュー長篇。

2100円  
590093-9



**祖母の手帖**  
ミレーナ・アグス  
中嶋浩郎訳

サルデーニャの祖母が愛した「帰還兵」。イタリアの新鋭による、ひたむきで官能的な愛の物語。美しい器楽曲を思わせる小さな本。

1600円  
590098-4



**手紙**  
ミハイル・シーシキン  
奈倉有里訳

戦争に行った若者と残された少女。ふたりは百年の時を隔ててめぐり会う。死を超えて、時空を超えて綴られた、瑞々しい愛の手紙。

2400円  
590097-7



**タイガーズ・ワイフ**  
テア・オブレイト  
藤井光訳

「不死身の男」と「トラの嫁」。二つの物語が、祖父の人生の謎を浮き彫りにする―。本屋大賞翻訳小説部門第一位。驚異のデビュー作。

2200円  
590096-0



**アンネ・フランクについて語るときに僕たちの語ること**  
ネイサン・イングラダー  
小竹由美子訳

コミカルな語りには深い倫理性。人間の普遍を描きだす啓示のような物語。フランク・オコナー国際短篇賞受賞作。

1900円  
590101-1



**夏の嘘**  
ベルンハルト・シュリンク  
松永美穂訳

避暑地で出会った男女。癌を患う大学教授。作家とその夫。小さな嘘をきっかけに秘められた思いが溢れ出す。著者十年ぶりの短篇集。

2000円  
590100-4



**終わりの感覚**  
ジュリアン・バーンズ  
土屋政雄訳

精緻、深遠、洗練。四度目の候補にしてブッカー賞受賞。英国を代表する作家の、時間と記憶をめぐる優美でサスペンスフルな中篇。

1700円  
590099-1



**美しい子ども**  
ジュンパ・ラヒリ他  
松家仁之編

シリーズ創刊 15 周年を記念して、全 101 篇から選んだ傑作短篇アンソロジー。ラヒリ、ミランダ・ジュライ、マンロー、シュリンクほか。

1900円  
590104-2



**こうしてお前は彼女にフラれる**  
ジュノ・ディアス  
都甲幸治・久保尚美訳

どうしていつも、うまくいかないのか？ 浮気男ユニオールとたくさんの女たちが繰り広げる、おかしくも切ない九つの愛の物語。

1900円  
590103-5



**イースタリーのエレジー**  
ベティ・ガッパ  
小川高義訳

繊細な情感。とぼけた味わい。さまざまな階層のジンバブエの人々の日常をモザイクさながらに描きだした類まれなデビュー短篇集。

1900円  
590102-8



**もう一度**  
トム・マッカーシー  
榎本玲子訳

謎の事故で記憶を失い、巨額の示談金を得た男。失われた自分は、莫大な金で取り戻せるのか？ 絶賛と論争を呼んだ痛快な異色作。

2100円  
590107-3



**ディア・ライフ**  
アリス・マンロー  
小竹由美子訳

2013年ノーベル文学賞を受賞した短篇小説家が、透徹した眼差しと眩いほどの名人技で描きだす平凡な人々の途方もない人生の深淵。

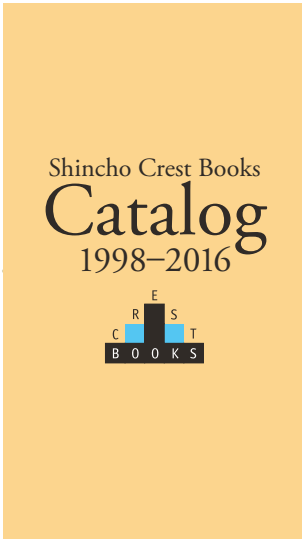
2300円  
590106-6



**いにしへの光**  
ジョン・バンヴィル  
村松潔訳

姿を消した人気女優と後を追う老俳優の、奇妙な逃避行。いくつかの曖昧な記憶が不意に新しい像を結ぶ。プッカー賞作家の最新作。

2100円  
590105-9



**大いなる不満**  
セス・フリード  
藤井光訳

なぜか毎年繰り返される、死者続出のピクニック。平均寿命一億分の四秒の微小生物。不条理と笑いに満ちた圧倒的デビュー短篇集。

1800円  
590109-7



**遁走状態**  
ブライアン・エヴンソン  
柴田元幸訳

前妻と前々妻に追われる元夫。勝手に喋る舌を止められない男。明晰に語られる十九の悪夢。ホラーも純文学も超える驚異の短篇集。

2100円  
590108-0



**低地**  
ジュンパ・ラヒリ  
小川高義訳

インド民主化運動のなかで殺された弟。その身重の妻をアメリカに連れ帰った兄。愛と失意が織り成す波乱の家族史。待望の長篇小説。

2500円  
590110-3



**ハイウェイと  
ゴミ溜め**  
ジュノ・ディアス  
江口研一訳

『オスカー・ワオの短く妻まじい人生』の著者による伝説的デビュー作。全米最優秀短篇に選出された「イスラエル」ほか全十篇。

1900円  
590004-5



**マリアが  
語り遺したこと**  
コルム・トビーン  
榎本伸明訳

母マリアによるもう一つのイエス伝。「聖母」ではなく人の子の母としてのマリアが語る、美しく果敢な独白小説。プッカー賞候補作。

1600円  
590113-4



**光の子供**  
エリック・フォトリノ  
吉田洋之訳

私の母は誰なのか――。パリを舞台に、映画と現実を往来するある男の愛の彷徨。ル・モンド紙元編集長による《フェミナ賞受賞作》。

1800円  
590112-7



**甘美なる作戦**  
イアン・マキューアン  
村松潔訳

M15の美人スパイと若き小説家。二人の愛は幻だったのか？ 自伝的で小説論的。プッカー賞作家による野心あふれる恋愛小説。

2300円  
590111-0



**突然  
ノックの音が**  
エトガル・ケレット  
母袋夏生訳

しゃべる金魚。神様の本音。ままならぬセックス。そして突然のテロ――。イスラエルの人気作家の掌篇集。オコナー賞最終候補作。

1900円  
590116-5



**風の丘**  
カルミネ・アマーテ  
関口英子訳

古代遺跡の夢。ファッションとの戦い。一族の秘密。イタリア最南端、風の強い丘に暮らす家族四代の物語。カンビエロ賞受賞。

2100円  
590115-8



**善き女の愛**  
アリス・マンロー  
小竹由美子訳

誰にも覚えのある家族間の出来事を見事なドラマとして描きだす、マンローの金字塔の短篇集。1998年度全米批評家協会賞受賞作。

2400円  
590114-1



2300 円  
590119-6

## あなたを 選んでくれるもの

ミランダ・ジュライ

岸本佐知子訳

映画の脚本執筆に行き詰まった著者は、フリーペーパーに売買取断を出す人々を訪ねる。カラー写真満載、心を打つインタビュー集。



1800 円  
590118-9

## 子供時代

リュドミラ・ウリツカヤ  
絵ウラジーミル・リュバコフ

沼野恭子訳

中庭のあるアパートに住む子供たちが出会った奇跡。「キャベツの奇跡」「折り紙の勝利」等、祝福されたかけがえのない瞬間に心打たれる6篇。



1600 円  
590117-2

## ヴォルテール、 ただいま参上!

ハンス・ヨアヒム・  
シュートリヒ 松永美穂訳

尊敬と反発、女性関係に金銭トラブル。ヴォルテールとフリードリヒ大王の知られざる素顔を描く、笑いと驚きの新しい歴史小説。



1700 円  
590121-9

## 文学会議

セサル・アイラ  
柳原孝敦訳

小説家でマッド・サイエンティストの〈私〉は文学会議に出席する文豪のクローン作製を企むが。アルゼンチンの奇才が放つ衝撃作!



1600 円  
590120-2

## べつ言葉で

ジュンパ・ラヒリ  
中嶋浩郎訳

「私にとってイタリア語は救いだった」——夫と息子たちとともにローマに移住した作家が綴ったイタリア語による初エッセイ。



2200 円  
590123-3

## 夜、僕は 輪になって歩く

ダニエル・アラロン  
藤井光訳

内戦終結後に再結成された伝説の小劇団。十数年ぶりの公演旅行は、ある嘘をきっかけに思わぬ方向へ。ペルー系作家による話題作。



1900 円  
590122-6

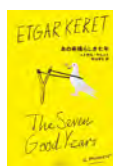
## 未成年

イアン・マキューアン  
村松潔訳

輸血を拒む少年と彼を救おうとする女性裁判官。運命や信仰をめぐる激しい葛藤、恋にも似た思い。プッカー賞作家による最新長篇。

Shincho Crest Books  
**Catalog**  
1998-2016

	R	E	S	
C				T
B	O	O	K	S



1700 円  
590126-4

## あの素晴らしき 七年

エトガル・ケレット  
秋元孝文訳

愛しい息子の誕生からホロコストを生き延びた父の死までの、悲嘆と哄笑と祈りに満ちた七年。イスラエル作家の自伝的エッセイ集。



1700 円  
590125-7

## 屋根裏の 仏さま

ジュリー・オツカ  
岩本正恵・小竹由美子訳

20世紀初頭、「写真花嫁」としてアメリカに渡った少女たち。そのささやきや圧倒的な声になって立ち上がる全米図書賞候補作。



1800 円  
590124-0

## 陽気なお葬式

リュドミラ・ウリツカヤ  
奈倉有里訳

自分のお葬式が愛で満たされるように願う亡命ロシア人画家アールクの最期の贈り物とは——不思議な祝祭感と幸福感が溢れる物語。



2700 円  
590129-5

## すべての 見えない光

アンソニー・ドーア  
藤井光訳

ドイツの若い技術兵と、フランスの盲目の少女の心を繋いだのは、ラジオから流れる懐かしい声だった——。ピュリッシャー賞受賞作。



1700 円  
590128-8

## 誰もいない ホテルで

ペーター・シュタム  
松永美穂訳

森の中の宿で。リノベーションされた工場跡地で。音楽フェスの夜に。心をとらえ、運命を動かす瞬間。スイス人作家による短篇集。



1900 円  
590127-1

## 煉瓦を運ぶ

アレクサンダー・  
マクラウド  
小竹由美子訳

その後の人生を一変させる決定的瞬間を、瑞々しい筆致で描き出す。故アリスティア・マクラウドの息子による鮮烈なデビュー短篇集。